



11月定例会が始まりました(12/18まで)

15日から始まった11月定例会。来年度の予算編成をどんな姿勢で行なうのか市長へ提案するという趣旨で会派代表質問があります。

会派代表質問・共産党議員団

11/29(水) 13:00~

①人の持続可能性と

住みやすいまちづくり

住民が住みやすいまちづくりが人口減を食い止める。ハード整備重視から、ソフト面の人の住みやすさに予算配分の軸足を移すことが大事。子育て支援、ドアツードアの交通施策、地域を守るための公共施設の持続などに思い切った予算配分を。

②環境の持続可能性を高めよう

ごみの全量外部搬出をするなら、経費削減のために分別と燃やすごみの減量実践のチャンスにしよう。市役所、市民、子どもたちと意識変革から行動変容を。生ごみや落葉などを燃やさない。紙おむつ処理は道筋ができれば子育てや介護の支援にもなる。学校も、環境教育、エネルギー循環社会を学ぶ場に。環境美化の維持管理費にはお金を充てて心地よく住める町をまずつくろう。

③広域化された事業も

市の責任を果たすべき

統廃合された保健所がコロナ禍で機能不全に陥ったように、各自自治体の施策への責任が薄くなる広域化は、命と暮らしを守る住民自治を空洞化させかねない。広域化された事業についても市の責任ある関与が必要。公立病院である中東遠総合医療センターや、環境資源ギャラリーにもしっかりと市の施策を反映させ市民の声を届けて。傍聴(ネット中継有)にもお越し下さい。



汐見稔幸先生の講演

(かけがわ教育の日)に共感!

汐見先生からは学童保育の指導員時代に研修などでも子どもたちの遊びの重要性などのお話を何度も聞いてきました。

不登校の増加は「今の学校はイヤ」という子どもの声でもあります。周回遅れと言われる日本の教育を本当に「教えから学びに」かえていなくてはならないこと、子どもたちの好奇心や興味をよりどころに「非認知的能力」を育てる学びを豊かな経験の中で育てていく幼児期からの教育の大切さを語って下さいました。

どのくらい面白い環境を用意できるかが大人のつとめ。全くその通りだと思いました。

明石市(兵庫県)の視察からみえたこと

文教厚生委員会で見

日視察した明石市は、

すべての子どもたちを

まちのみんなで支えるという「こ

どもを核としたまちづくり」と「す

べての人にやさしいまちづくり」

を2本柱に市民に寄りそうまちづ

くりでまちの好循環を作りだして

います。

子育ての5つの無償化には子ど

ものためとして所得制限がありま

せん。住みやすさから人口が増加、

衛生費にシフトすることで経済の

好循環も作りだしています。

市長が替わっても施策が引き継

がれているのは、市民の満足度が

高いからだと思えます。どこを向

いて政治を行なうのか。誰の声を

聞くのか。重点施策を決めるとき

向いている方向が違えば違う政治

になるわけです。

掛川市にも市民の生活、弱者の

側によりそう目線を大切にしてい

たいと思えました。



子どもを核としたまちづくり

すべての子どもたちを
まちのみんなで支える

p04-05で
解説

全国トップクラスの
安心感

明石独自の
5つの無料化

- ① 子ども医療費
- ② 保育料
- ③ おむつ(宅配も)
- ④ 中学校給食
- ⑤ 遊び場



〈明石市市政ガイド2022より〉

どんな理由をつけてもガザ住民虐殺は許されない!
非戦闘員への無差別殺戮は国際法違反です。
イスラエルはただちに戦闘行為を止めて撤退を!



シクラメン

特別お金のあるまちではありませんが、予算を土木費から民生・好循環も作りだしています。市長が替わっても施策が引き継がれているのは、市民の満足度が高いからだと思えます。どこを向いて政治を行なうのか。誰の声を聞くのか。重点施策を決めるとき向いている方向が違えば違う政治になるわけです。掛川市にも市民の生活、弱者の側によりそう目線を大切にしてい